

令和 7 年度第 1 回県立高等学校の在り方調査研究部会において
出された意見の整理

1 学びの在り方関係

学校と地域の企業との連携を一層進めるべきではないか。

(現状)

- ・ 人手不足により、県内企業の人材ニーズは一層高まっている。

専門性の高い学びを提供するに当たっては、普通科と専門学科の併設や総合学科の設置を進めるべきではないか。

(期待される効果)

- ・ 学校の規模も維持することができる。
- ・ これまでの専門学科に係る取組を継承することができる。

全日制課程と通信制課程の併設を進め、生徒がこれらの課程を柔軟に行き来できる制度を導入してはどうか。

(現状)

- ・ 通信制課程に通う生徒が増加している。
- ・ 県内の私立高校においては、全日制課程と通信制課程を併設し、柔軟に課程間を行き来できる制度を設けている。

(期待される効果)

- ・ 入学後の生徒のニーズの変化に柔軟に対応することができる。

設置者が同じであり、県内全域に多様な学びを有する県立高校の強みを生かした取組をしてはどうか。

(取組例)

- ・ I C Tを活用した特別授業の実施。
- ・ 県内全域の高校生を対象とした体験学習の実施。
- ・ 全日制課程の高校、定時制課程の高校、通信制課程の高校が連携した授業の実施。

2 規模及び配置の在り方関係

これからの学校には一定の規模（1 学年当たりの学級数）が必要ではないか。

（現状）

- ・ 学校規模にかかわらず、一人ひとりの生徒を丁寧に見ることができている。

（期待される効果）

- ・ 多くの級友との学校生活により、人間関係について学ぶことができる。
- ・ 多様な経験を持つ教員を配置できる。

全国と比較して専門学科が多く、高校卒業後すぐに就職する生徒が多い現状を考慮した配置をすべきではないか。

（現状）

- ・ 人手不足により、県内企業の人材ニーズは一層高まっている。（再掲）